

神奈川県秦野市における

ナラタケ食文化の由来と歴史

秦野市でナラタケがこよなく愛されているのはなぜか

要旨

氏名：伊井美結

神奈川県秦野市では、ナラタケ属のきのこは「あしなが」の愛称で広く知られている。秦野市では、「あしなが蕎麦」と呼ばれる独自の食文化がある点、あしなが以外の野生のきのこをほとんど採取しない点、あしながが高価格で取引されている点においてあしながを特異的に珍重している。秦野市周辺地域（足柄上郡中井町、平塚市、愛甲郡清川村、松田町）や山梨県南都留郡山中湖村でもそれらを同様にあしながと呼び、食利用する文化がある。そこで本研究では、あしなが食文化の特徴を解明し、その来歴を考察すること、ならびに限られた地域で利用される特定のきのこを対象とした菌類民俗学的研究の方法論確立を目指すことを目的として、インタビュー調査と同行調査を実施した。秦野市とその周辺地域及び山中湖村との間で比較することで、秦野市におけるあしなが食文化の特徴を記載するとともに、その歴史的、文化的、地理的背景を考察した。

2024年5～11月に、秦野市及び周辺地域と山中湖村の住民13名を対象としてインタビュー調査を実施し、あしながの採取文化や食文化について情報を収集した。また、2024年10～11月に秦野市の住民を対象に4回の同行調査を実施し、採取場所の環境や採取行動に関する調査も行った。さらに、あしながとして食利用されるきのこの生物学的実体を明らかにするため、あしながの標本

を収集し、形態観察や分子系統解析に基づき種同定を試みた。その結果、キツブナラタケ、クロゲナラタケ、ナラタケ、ワタゲナラタケ、ワタゲナラタケの類似種が同定され、あしながには少なくとも5種を含むことが明らかとなった。

本研究によって、秦野市においてあしながは秦野市民を夢中にさせる魅惑の存在であることが分かった。すなわち、探索や採取などの楽しみは自分自身で密かに味わい、食べる楽しみや分け合う楽しみは他者と共有する。これは、多くの採取者は探索や採取などの過程に価値を見出す一方、非採取者はあしながを食べることに価値を見出すということである。さらに、鎌倉街道御坂路及び矢倉沢往還の開通、1590年頃の米倉氏の秦野地方への参入、煙草栽培の拡大や煙草専売所の設置に伴い、秦野市及び周辺地域と山梨県の関係性が構築されたと推察される。それとともに、両地域では煙草栽培の拡大により山や森に行く機会が増加し、あしなが食文化がどちらかまたは両方の地域で誕生したのがその起源であると推測できる。

(1047字)